

会 議 録

会 議 名	第3回 八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 高齢者計画・介護保険事業計画策定部会
日 時	令和5年(2023年)7月12日 14時00分～16時00分
場 所	八王子市役所本庁舎 801・802 会議室
出 席 者 氏 名	委 員 杉原 陽子委員、村上 正人委員、田中 泰慶委員(3名)
	臨 時 委 員 村山 洋史委員、島崎 誠委員、大井 みゆき委員、大島 和彦委員、 野島 啓子委員、新井 隆男委員、大竹 毅委員、井上 顕委員、八木 広行委員、 香川 正幸委員、土井 俊彦委員、牧野 友香委員 (12名)
	事 務 局 高齢者いきいき課 吉本 知宏課長、辻 誠一郎主査、森田 直樹主査、吉井 文隆主 査、池田 光主任、村田 海主任、吉村 航季主任、大内 夏奈主 事、和泉 みのり主事 福祉政策課 柏田 恆希課長、辻野 文彦主査 高齢者福祉課 富山 佳子課長、鎌田 哲弥主査、佐草 真悠主任、竹内 三枝専 門員 介護保険課 中山 あずさ課長、長谷部 晃一課長補佐兼主査、波多野 周主査
欠 席 者	鈴木 長一委員、竹内 将人委員
次 第	1 開会 2 報告 第2回計画策定部会ワーク結果と基本理念・柱案 3 議題 ワーク「個別ロジックモデル」 4 事務連絡 5 閉会
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数	6人
配 付 資 料	・次第 ・資料1 第2回計画策定部会ワーク結果と基本理念・柱案 ・資料2 全体・個別ロジックモデル ・参考資料1 ロジックモデル別案 ・参考資料2 在宅生活改善調査(ケアマネジャー調査) 集計結果(速報版) ・参考資料3 在宅生活改善調査(ケアマネジャー調査) 集計結果(単純集計) ・意見書

会議の要旨

辻主査	<p>1 開会</p> <p>定刻となりましたので、ただいまより八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 第3回八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会を開会いたします。</p> <p>なお、本日はグループに分かれてのワークショップを行います。進行の関係上、グループごとに座席を用意しております。</p>
-----	---

≪資料の確認≫

それでは、資料の確認をさせていただきます。

- ・次第
- ・資料1 第2回計画策定部会ワーク結果と基本理念・柱案
- ・資料2 全体・個別ロジックモデル
- ・参考資料1 ロジックモデル別案
- ・参考資料2 在宅生活改善調査（ケアマネジャー調査） 集計結果（速報版）
- ・参考資料3 在宅生活改善調査（ケアマネジャー調査） 集計結果（単純集計）
- ・意見書

以上です。不足の資料はございませんでしょうか。

次に会議の公開・非公開についてですが、八王子市社会福祉審議会条例施行規則第4条及び八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針 第12に基づき、原則公開いたします。公開することが適当でないときとは非公開の決定を行うこととなっております。

会議録については要綱第10条に基づき事務局で調製いたします。調製後、会長のご承認をいただきます。

本日、欠席委員は2名ですので開催要件は満たしております。

なお、本日の傍聴者は6名です。

本日ワークショップの間に計画策定の過程を記録するためにカメラで様子を撮影させていただきたいと思っておりますので、ご了承ください。

それではここからは、八王子市社会福祉審議会条例第4条第3項及び第6条第6項の規定に基づき議事の進行を会長に委ねます。

杉原会長よろしく願いいたします。

杉原会長

それでは次第に沿って議事を進めて参りたいと思います。

まず、報告 第2回計画策定部会ワーク結果と基本理念・柱案 です。

事務局から説明をお願いします。

辻主査

2 報告 第2回計画策定部会ワーク結果と基本理念・柱案

それでは、お配りした資料1をご覧ください。前回、3つのグループに分かれて、目指すまちの姿について議論をしていただきました。かなり面白いキーワードや、熱い議論が出てきた中で、それを1つの形にまとめる上で苦労しましたが、共通の要素を抽出することで、1つまとめを作成しました。

まずは、皆さんのグループで作られた模造紙をA、B、Cの3ページにまとめました。この内容に大きく共通する要素を3種類拾い上げたものが、この「安心」、「希望」、「未来」という3つの言葉でございます。

目指すまちの姿を考えるに当たって、「安心」、「希望」、「未来」の3つのキーワードで目指すまちの姿を説明できるのではないかというのが、このまとめでございます。

具体的な内容がスライド6ページ目下段です。

まず、「安心」は、出逢い、つながり、支えあう地域づくりを表しています。具体的には、認知症や要介護状態など、いろいろな困難がある状態になっても、地域の住み慣れた場所で自分らしく暮らしていける地域をつくっていかうという柱です。

続いて、2つ目の「希望」というのが、やりたいこと、なりたい自分をあきらめない環境づくり。下段にありますとおり、一人ひとりに合った交流や活動の場に参加しながら、結果的に介護予防・フレイル予防につながるような活動をしている方が増えているという状態。それだけではなくて、一度要介護・要支援の状態になっても、自立できること、そのために頑張れば元気になれるという希望をみんなが持てるような環境をつくっていくというイメージです。

3つ目の、制度の部分の「未来」は、世代を超えて信頼できる制度づくりを表しています。内容としては、必要なサービスを将来にわたって提供できる、例えば、介護人材の不足や、事業所の苦労の話など、こういった内容についての対策をしっかりとしていくイメージです。

これをもとにさらに計画の全体として目指すもの、基本理念のたたき台を事務局でつくらせていただきました。

3つの柱をそのまま分かりやすく伝えたいほうが良いかと考え、こちらにあるとおり、「誰もが安心と希望を持って年を重ねられる、未来につながるまち」という案を作成いたしました。

これは、「安心」、「希望」、「未来」と、何を指すかを分かりやすく一言で表すことに加えて、誰もがという言葉で、高齢者はもちろん、高齢者を支える家族の方や、介護に関わる方など、みんなが安心や希望を持って暮らせるように、そういったまちをつくっていくという思いを表現しています。

最後のページでは、今お話しした3つの柱と基本理念の案各グループから出てきた目指すまちの姿のイメージを1枚の絵で説明しています。

実際に基本理念や計画の柱について事務局、部会として正式に決めていくのは、計画全体の素案と同じタイミングになります。11月の終わりから12月ぐらいにかけて素案として確定した上で、パブリックコメントにかけていきます。今日は、この素案や柱について、表現レベルで議論していく時間は残念ながら取れませんが、非常に重要な部分のため、ぜひご意見、ご質問をお願いします。また、最終的な確定までは時間がありますので、意見書でもぜひご意見をいただきたいと思います。

続いて参考資料1をご覧ください。今のたたき台をつくるに当たって、我々事務局の中でも決めかねているポイントを記載しています。こっちの表現の方が良いのではないかとか、そもそもこういう感じで考えた方が良いのではないかなど、いろいろとご意見をいただければと思っております。

杉原会長	<p>ありがとうございました。ただいまのご説明についてご意見、ご質問等がございますか。</p> <p>今、示してくださっている基本理念や柱については、今日議論するのではなく、意見書で意見をいただきたいということでよろしいですか。</p>
辻主査	<p>そうですね。ただ、ほかの委員の方に投げかけたいことなどがあれば、ここで言っていたほうが伝わりやすいかと思うので、少しばかり時間をとります。大体5分、10分程度は質疑の時間をとれますので、何かあればぜひお願いします。</p>
杉原会長	<p>分かりました。今の段階で、基本理念や3つの柱について、もしお気づきの点がありましたら、お願いいたします。あと、事務局の方で参考資料1「ロジックモデル別案」で悩んでいるところがあると先ほどご説明がありましたが、具体的な懸念点を少し補足で説明していただいてもよろしいですか。</p>
辻主査	<p>かしこまりました。それでは、参考資料1について簡単に説明いたします。まず3つ悩んでいるポイントがございまして、1つは基本理念ですが、もう少し表現を加えてみたのが別案です。8期計画の基本理念に「いつまでも自分らしい生活を送ることができる生涯現役のまち」とあります。人によってできること・できないことは違いますし、若い人も年をとられた方もいます。その中で、いろいろな人が自分の望んだ暮らし、自分らしい暮らしをするというのが、地域包括ケアの理念そのものだということで、これに近いニュアンスを持った言葉を加えたのが、下の案です。</p> <p>上の案と下の案で違うのは、要素がよりプラスされていることですが、長いのと短いのとどっちが好きか、分かりやすいかというのも人によって違うと思うので、皆さんにそのまま両方の案を提示させていただきました。</p> <p>2つ目は、柱の2番目についてです。上の案では「やりたいこと、なりたい自分をあきらめない」と入れています。この「あきらめない」という言葉は、前回部会の中でいろんなグループから出てきて、すてきな言葉だと思って入れました。しかし、この言葉が強過ぎて、こんなに頑張りたくないという方にとっては、あまり共感できない言葉になるのではないかという意見もありまして、もう少しやさしい表現、今の自分のありのままを受け入れるということを重視したニュアンスにしたものが下の案です。どちらも好みといったところもあると思うので、皆さんにそのまま示させていただきました。</p> <p>3つ目は、後でワークを行う個別のロジックモデルに関する内容になりますので、C13のワークの際、各自ご覧ください。</p> <p>一旦、参考資料1については、以上とさせていただきます。</p>
杉原会長	<p>補足説明ありがとうございました。そういたしますと、こちらの参考資料1で、例えば、基本理念で言えば、グレーの案と白い枠の案の2つについて、事務局としては迷っているということですね。柱についても、1、2、3がありますが、特に柱2について</p>

	<p>は、グレーの案と白い案で迷っているというご説明がありましたので、その辺りも踏まえて、グレーが良いとか、白が良い、あるいは、もう少し別の表現が良いというご意見をこの後意見書でいただきたいという趣旨でよろしいですか。</p>
<p>辻主査</p>	<p>はい。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>そういうことですので、柱1や柱3はここに示されておりませんが、1や3の「安心」とか「未来」、この辺りの表現も含めて、より皆様にこれが良いというご意見がありましたら、ぜひ意見書のほうでよろしく願いいたします。</p> <p>あと、何かこの点についてご質問、ご意見等はございますか。</p> <p>香川委員、お願いいたします。</p>
<p>香川委員</p>	<p>香川でございます。柱3本、「安心」、「希望」、「未来」ということで、非常にすばらしいバランス感覚の良いキーワードになっていると思います。</p> <p>ただ、「未来」のところについて、「世代を超えて信頼できる制度づくり」となっているのですが、これだと少し狭義の意味になっていまして、行政の立場というよりも、市民の目線から見ますと、八王子が未来に発展し伸びるまちだというブランディングというか、地域のイメージアップにつながるような活動を進めるのが望ましいのではないかと私は思います。</p> <p>例えば、八王子への移住者が増えるとか、地域住民の愛着とか、帰属意識が高まる、そういうためには、八王子と聞けばどういうまちなのかというブランディングが必要ではないでしょうか。もちろん今までいろいろ活動されて、その途上にあるかと思いますが、どんなまちと言われると、学生が多いまちとか、緑が多いまちといった漠然としたものでしかなくて、いま一つ迫力がない。後のワークショップでもいろいろと意見を述べさせていただきたいと思いますが、例えば、元気老人のまちとか、高齢者が非常に元気なまちという旗を立てて、その旗に向かってベクトルを揃えて、いろんな活動をやっていくことが良いかと思います。全方位戦略は何もやらないことと同じで、1つ「八王子は町田と比べても、日野市と比べても変わっている」という路線を打ち立てて、それが未来に向かって伸びていくようにしなくてはならない。もちろん制度づくりだとか、介護人材の確保とか、そういういろんな問題がありますが、そういう問題を全部まとめると、魅力ある八王子市というものがキーワードになってくるかと思いますので、ぜひ未来がもう少し明るくなるような、幅広い目線、視座で、ご検討いただけるとありがたいです。個人的な意見で申し訳ないですが、また意見書でも出させていただきますが、この場でぜひほかの委員の方のご意見も伺えたらと思ひまして、発言させていただきました。よろしく願いいたします。</p>
<p>辻主査</p>	<p>ありがとうございます。</p>

<p>杉原会長</p>	<p>ありがとうございます。 続きまして、議題「個別ロジックモデル」についてです。 事務局から説明をお願いします。</p>
<p>辻主査</p>	<p>3 議題「個別ロジックモデル」</p> <p>それでは、本日のワークショップの内容についてです。まず、資料2をご覧ください。全体ロジックモデルというものが1ページ目にございまして、2ページ目以降が個別ロジックモデルになっております。</p> <p>全体ロジックモデルが何かというと、先ほどたたき台として示した「基本理念」、それを実現していくための「基本理念を支える3つの柱」、これが右側に入っています。</p> <p>この3つの柱はかなり抽象的な表現になっていますので、これを実現するためにどういったことが必要か、施策分野レベルでブレイクダウンした言葉にしたものが、このC1から17のアウトカム②に書かれている中間的なアウトカムになってきます。</p> <p>具体的には、「安心」の柱につながるものとしては、C01「住み慣れた地域で、状態に応じた必要な介護等が提供されている」がありますが、これは全ての基本の基本で、必要なサービス、質の高いサービスがちゃんとあるという状態ですね。</p> <p>C02が今全国的にもキーワードになっている医療と介護の連携。C03は住まい、こちらも今、非常に重要なトピックになっています。C04が災害、感染症、まさに安心を守るための必須対策です。そして、C05の権利擁護。こちらは、例えば自分で財産に関する判断が難しい状態になった方の財産を保全する仕組みや、虐待を防ぐための取組を含めています。そして、C06が家族の負担が軽減されているというものです。</p> <p>C07が認知症の予防と共生に向けた支援体制。C08が、いろんな専門性を持った機関が連携して、人の暮らしをトータルで支えられるような体制づくりです。</p> <p>C09が、身近な場所で相談できること。これが非常に市民側にとって重要なことになってきますので、安心を支える1つに入れています。</p> <p>C10が、企業も含めたいろんな主体からの見守りやサポートといったもの。</p> <p>C10より下にある個別ロジックモデルが、どちらかといえば、「希望」の柱につながってくるものです。C11が社会参加に関して、C12が体を動かすなど身体的な部分に関する介護予防についてです。C13が、先ほども少し話題に出てきた再自立です。C14が状態改善、重度化防止。同じサービスを受け続けていても、良くなるのか、悪くなるのか、変わらないのか、こういったものが重度化防止です。</p> <p>最後、「未来」という部分ですね。C15が、自立に向けて必要なサービスを提供するための適切な認定の部分。そして、C16は非常に重要な介護人材。C17は、行政側の話になりますが、PDCAサイクルに基づいた施策の立案、運用といったものです。</p> <p>こういった個別の17個の中間アウトカムについて、どうやって達成するのかをより分解して考えたものが、次のページからの個別ロジックモデルです。</p> <p>今回のワークはこれに基づいて進めてまいります。例えば、C06をご覧ください。家族の負担が軽減されているという目的を達成するためには、一般的な言葉をより</p>

細かく分解して、真ん中の上にある物理的な労力が軽減されているということと、心理的な負担感が軽減されていること。それに加えて、そもそも支援の手がどこまで届くかというのが今非常に重要だと言われているので、隠れた介護者に支援が届くかというアウトカム③を加えています。

さらに、仕事と介護の両立という視点もアウトカム③の一番上に加えています。こういうふうに、達成するために必要なものを枝分かれさせて、一番左の列で、具体的な事業や施策にブレイクダウンしています。

各ワークでは、グループごとにその事業について分かっている職員が参考人として入らせていただいて、さらに事務局のメンバーも入ります。ロジックモデルの構造について一度事務局からご説明しますので、それをもとに議論をしていただきます。

事務局からの説明も含めて30分で議論していただいて、その後、どんな議論をして、どんな方向性が出たか、どんな課題が見つかったかということについて発表していただくという流れです。

ワークに当たっては、以前メールでもお送りしましたが、上のアウトカムを達成するために見落としている視点はないか、今やっている事業でも実はこういう課題があつてうまくいっていないのではないか、もしくは、この事業は言葉で言うほど簡単ではないといったご指摘を付箋で貼っていただくようなイメージです。

あと、指標と書いてある部分ですね。何をもちて成功を測るかということですが、今の時点では、どうやって測るかといったところは後回しにさせていただきます。これは、第5回以降の部会で皆さんと一緒に議論していただく想定です。

このワークショップについては、傍聴人の方も席にいらっしゃったら分からないことがあると思いますので、少し動き回りながら全体の雰囲気を見ていただいて構いません。ただ、議論に入って一緒に発言するということはできませんので、そこはご了承ください。

説明が長くなりましたが、以上でございます。

杉原会長

ありがとうございます。今の説明について、ご意見、ご質問等はございませんか。

各テーブルに事務局の方がついてくださるので、適宜フォローしてくださると思いますが、大丈夫でしょうか。今、ご説明がありましたとおり、今期の目標を支えるための中期の目標、それからそれを支える小さい目標、その小さい目標を達成するための事業というのをこれから考えていくわけですが、それに当たって、今期の目標ですね。それを達成するために足りない視点はないかとか、あるいは、これは本当に役立つのかとか、阻害要因があるのかとか、そういった観点からご意見をいただきたいという趣旨でございます。特にご質問、この段階ではよろしいでしょうか。

では、早速ここからは4グループに分かれてワークショップを行います。グループごとの進行は事務局が行います。ワークショップの時間は30分となりますので、大体15時ということでよろしいでしょうか。

辻主査	はい。
杉原会長	<p>それでは、15時まででお願いします。</p> <p>最後に、話し合った内容について、3分程度の発表の時間を設けていますので、発表者も併せてお決めください。</p> <p>それでは、各グループ、作業を開始してください。</p> <p>《前半グループワーク》</p>
杉原会長	<p>皆様、ありがとうございます。全然時間が足りないとは思いますが、時間になりましたので、各グループの発表に移ります。</p> <p>では、発表は1グループ3分程度でお願いいたします。</p> <p>まず、Aグループから発表をお願いいたします。</p> <p>《Aグループ（C06）》</p>
土井委員	<p>Aグループです。家族の負担が軽減されているというところで、まず上のほうから、「介護をしながら働ける仕組みができています」とありますが、その中で意見が出たのは、労力だけではなく、経済的負担もかかっているため、それに関するアウトカムも必要ということです。</p> <p>真ん中のアウトカム④では、認知症の方の介護、高齢者の病気への理解と言いますか、対応の仕方が難しいのではないかという意見が出ました。また、家族で暮らしていて、親や同居者の認知度の進み方についてなかなか発見できない状況の中で、地域の方や周りの方の認知症に対する理解があるかどうかということは、難しい問題があるという意見も出ました。</p> <p>「介護サービスやその他の生活支援サービスを利用している」というアウトカムについては、なかなか時間的なゆとりがないのではないかとということと、介護者が他の介護者と交流する機会があるかどうかとなると、家族会、カフェを知っている人を増やすことも必要ですし、情報を知るハードルを低くして、誘い出していく方法が必要ではないかということです。</p> <p>あと、ケアマネジャー、病院、ネット等、かかりつけ医のネットワークを使いまして、こういった機会をつくるということも必要ではないかという意見が出ました。</p> <p>また、「メンタルヘルス専門職等による支援が受けられる」というアウトカムについては、やはり精神科の医師が必要なのではないかとということや、認知症の医師がより前面に出てこないといけないのではないかという意見が出ました。</p> <p>「介護者や被介護者に関する地域の理解・支援」については、より声に出して言わなければならないのではないかと同時に、かかりつけのお医者さんから、つながらない、要するに専門的な精神科医師、認知症の医師に対するつながりができていない、連携が取れていないのではないかという意見も出ました。</p>

	<p>最後に、ヤングケアラーなど隠れた介護者に支援が届くようになってきているかというところで、アウトカムに関しては、ぜひとも学校との連携も視野に入れて、生徒の私生活をもっとケアできないかということと、最後になりますけど、「どのような方がどのような支援を受けているのか知られている」というところでは、知らなくても支援にある程度はつながっているとは思いますが、窓口の周知の徹底をしていただければという考えで、このAグループの発表を終わらせていただきます。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>ありがとうございます。では、続いて、Bグループ、発表をお願いします。</p>
<p>村山副会長</p>	<p>「Bグループ (C11)」</p> <p>Bグループは、C11について村山から発表させていただきます。</p> <p>まず1つ目に、アウトカム②の「ライフスタイルや趣味に合わせて、就労」という言葉がありますが、世の中には、お金のために就労せざるを得ないとか、家業とか農業で仕事をするのが当然として続けてきた方々がいらっしゃる中で、「ライフスタイルや趣味に合わせて」というと、ちょっと合わない人たちが存在するのではという意見がありました。今の状況だと多分生きがいとか、楽しみのための就労というのがフォーカスされているように思いますが、施策や事業のところでは、ハローワーク等もあるので、生きがい就労だけに特化するのでは、辻褄が合わないのではないかと思います。</p> <p>続いてアウトカム③、④の部分について、役割、居場所、交流などいろんな言葉で分類されていますが、普通の人から見たら全部同じことを言っているだけではないか、事業のほうから見てアウトカムが分けられているのではないかという意見が出ました。</p> <p>最初のアウトカム②の部分に関しては、ライフスタイルや趣味という言葉を使わずに、それぞれの人の状況に合った趣味や社会参加の機会が提供されていると表現したほうが、より良いのではないかと思います。やりたいときとか、何か見つけたいと思うときに、仕事や社会参加の機会が得られるということが大事だという話になったので、そういう形でこのアウトカム②の部分は修正していくと良いのではないかという話が出ました。</p> <p>それから、アウトカム③の上から3番目の「日常的に行く場所がある」というのは、どちらかというと物理的なもので、下2つのアウトカム、いわゆる就労とか社会参加というところでは、もっと所属とか、帰属が必要なものというので、書き方としてまとめていくのが良いのではないかという話になりました。</p> <p>それから、アウトカム④の2つ目に、「高齢者の希望や個性に合わせた」という表現がありますが、これも楽しみのための就労というニュアンスがすごく強くなってきますので、希望、個性等の言葉を修正したほうがなじみやすいという意見もありました。</p> <p>それからもう1個が、その下の地域活動、趣味・教養の場、通いの場という、分けるとこうなるのかもしれませんが、学びとか、社会貢献のような、誰が見ても違いが分かるような言葉で束ねていったほうが良いという話もありました。</p> <p>機会、場、役割など、抽象的な言葉が非常に多いページだと思ったので、それはそれ</p>

	<p>で良いと思いますが、もう少し使い方や分け方に工夫がいると感じました。具体的などころまでは時間がなくて及びませんでした、以上になります。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>ありがとうございました。では、次にCグループ、発表をお願いします。</p>
<p>大竹委員</p>	<p>「Cグループ (C12)」</p> <p>Cグループの発表に移りたいと思います。C12「住民が介護予防に資する活動に取り組み、要支援・要介護状態になりにくくなっている」ということで、アウトカムとしては、多くの方の行動変容につながる効果的なプロモーションやデータ活用が行われていて、身体活動習慣が継続している、良好な栄養状態が保たれているという結果になるためには、どういったものが良いのかということと、足りないものということで議論させていただきました。</p> <p>まず、アウトカム③の「多くの方の行動変容につながる、効果的なプロモーションやデータ活用が行われている」ということですが、調剤の待ち時間の活用ということで、薬局がプロモーションにつながるような場所になれば良いと思っています。</p> <p>あとは、こういう啓発行動というのは全く楽しくないという意見がありました。正論は時に人を傷つけるという考えをもう少し大事にしていきたい、そんな話がありました。例えば、てくポの話が出ましたが、てくポをやっていること自体、もう既に高齢者のカテゴリーに自分が入ってしまったという気持ちにさせているということです。ポイントを使って何が楽しいのかといった話があったので、大事なことは、「若者には負けたくない」とか、「これさえやれば若者には負けない」など、そんな視点からの表現方法があっても良いのではないかといった話がありました。</p> <p>次、「身体活動習慣が継続している」というところも、行政も一緒に楽しいことをやるということや、せっかく八王子市は学生のまちなので、何か学生を巻き込んだアプローチができないのか、そんな意見もありました。</p> <p>あとは、男性の雇用問題も出ていたと思いますが、やはり先ほどお話したように、どうしても高齢者というカテゴリーになってしまうため、まだ働き手として頑張れるような、C11の内容も含まれている部分も少しありました。男性の場合は特に、何となくこれをやることで高齢者のカテゴリーに入ってしまうという気持ちになる、そういう話もありました。</p> <p>あとは、アウトカム④「誰かと一緒に食事を楽しむ機会が増えている」というところについて、女性の場合は、お話が上手な方が多いので、結構集まりやすいですが、男性はやはり集まりにくいといった話がありました。その中で、意外にオンラインの体操教室は、男性の参加率が高いといった話もありました。</p> <p>アウトカム③にあるとおり「良好な栄養状態が保たれている」というところについては、やはり歯の健康が大事という意見がありました。時間がなかったので、議論した点については以上となります。</p>

杉原会長	<p>ありがとうございます。それでは、最後にDグループ、発表をお願いいたします。</p>
村上委員	<p>「Dグループ (C14)」</p> <p>Dグループの発表をさせていただきます。C14「状態改善や重度化防止につながるサービスが提供されている」という個別ロジックモデルについて議論しました。</p> <p>まず、全体を通して思いましたが、状態改善や重度化防止という意味合いが利用者側家族と我々介護事業者の中で乖離があるのではないかという意見がありました。</p> <p>特に、私も見ていて、重度化したら介護保険を使えば良いとか、それぞれ培ってきた人生の中で、重度化、介護度、介護というものに対する認識の違いがかなり市民の中にあると感じました。</p> <p>当然、意識の高い人は介護予防を家族単位でもやっていますし、意識の低い方は、暴飲暴食や、スポーツもやらず、好き勝手なことをして、結局状態改善はできていないし、重度化につながっていきます。それについて、我々ケアマネや包括が下手に関わると、手間暇ばかりがかかってしまって、逆にまた迷惑がられる、嫌われるといった状況の中で、我々の職員が疲弊していき、離職率がどんどん上がっていくという悪循環につながっていることもあるのではないかというような意見が出されました。</p> <p>計画策定をするときに、自立支援という言葉はとても響きが良いですが、我々から見ると現状維持がとても大事かと思います。例えば要介護1の人を要支援に持っていくという感じで、非該当に持っていくということも行政の方は望んでいるかと思いますが、我々にとっては要介護4の人が要介護3になる、3の方が2になるということはとても大事なことです。しかし、利用者によっては、要介護3以上でなければ特養に入れなとか、2とか1だとなかなか施設に入れなということもありますし、そのような状況の中で、我々介護に携わる職員はどうしても悩みます。</p> <p>今回、7期、8期と比べて大分違う策定の仕方をしていると思いますが、個人的には、高齢者計画と介護保険計画は全く別物であって、一緒に討議するのはどうなのかという気がしています。なぜかという、介護保険計画は厚労省が決めていますから、一市区町村で決められる問題ではないので、その内容を入れてもあまり意味がないのではないかと思います。高齢者計画に関しては、福祉という概念が強くて、介護保険の予算ではなくて、市の一般予算費を投入して、八王子市独自の制度をつくるべきだと思っていますが、今までの計画の流れの中で、予算の話になると、介護保険の予算しかありませんとか、一般財源はなかなか増えませんとか、ますます財源が減っていきますという話ばかりで、結局裏づけになる予算もないのに、こういう計画を立てても意味があるのかという疑問を私個人は感じております。以上です。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございました。少し時間が押してまいりましたが、後半のワークショップに移りたいと思います。30分時間を取るの厳しいかもしれませんが、15時45分を目途に、後半のワークショップもお願いします。</p> <p>では、お手元の座席表の裏面に後半の座席が書いてありますので、ご移動をお願いい</p>

杉原会長	<p>たします。</p> <p>《後半グループワーク》</p> <p>皆さん、時間が足りなかったと思いますが、各グループの発表に移りたいと思います。</p> <p>また、申し訳ありませんが、1グループ3分間程度でお願いいたします。</p> <p>初めに、Aグループから発表をお願いします。</p>
大竹委員	<p>《Aグループ（C07）》</p> <p>Aグループの発表をしたいと思います。アウトカム②にあるとおり「認知症予防と共生に向けた支援体制が整っている」、ここに向けてどうすれば良いかという議論をさせていただきます。</p> <p>アウトカム③「認知症を発症しにくくさせたり、発症を遅らせることができている」に関するアウトカム④を見ていきましたが、この認知症を早期発見するということは、いつもどおりの状態が分かっていないと、いつもと違うというところを発見できない。そのため、いつもどおりの状態は何なのかといったお話がありました。その話の中で、やはり家族の気づきが大事という話がありました。</p> <p>認知症早期発見具体例としては、お財布の中を見たときに、認知症が進んでいる方は小銭が多いといったことが挙げられます。お買い物に行ったときに、お札をそのまま出して、お釣りをとりあえず入れてしまうそうです。そのため、こういったことは認知症の早期発見につながるのではないかと、そんなお話がありました。</p> <p>ただ、注意しなくてはならないことが、早期発見となると、いろんな地域と連携して、あの認知症だというように白黒はっきりさせるような地域づくりになってしまうと、逆に引きこもっちゃうこともあるため、運用は慎重に考えるべきだと思います。</p> <p>その中で、一番大事な考え方は、認知症を許容できる社会を目指したほうが良い、もっと言えば、明日は我が身、明日はみんな絶対認知症になりますよということを共有していければ、それぞれのアウトカムに向かっていけるのではないかと思います。</p> <p>認知症サポーターの養成も話題として出て、やはりこの名称は良くないという話になりました。サポーターとあることによって、結局線引きができてしまい、そもそもその名称が良くないのではといった話がありました。</p> <p>それに付随して、総括的な話になりますが、やはり高齢者あんしん相談センターを知らない人はまだいるのではないかと、ケアパスを知らない人がまだいるのではないかと、あとは見守りシールはあんなに便利なのにまだ知らない人がいるのではないかとといった話がありました。</p> <p>そこで、繰り返しですが、薬局を情報提供の場所としてぜひ活用していただければと思います。以上です。</p>

杉原会長	<p>ありがとうございました。では、続いて、Bグループ、発表をお願いします。</p>
村山副会長	<p>≪Bグループ(C13)≫</p> <p>Bグループは、C13「再自立が可能な方に確実に機会が提供され、自立した暮らしを取り戻すことが可能になっている」についてです。</p> <p>牧野委員からご家族のエピソードがありまして、家族としては、昔できていたこととか、やっていたことができるという思いがある。再びやってくれると良いなという思いが非常に強いという話があって、再自立や、リエイブルメントという概念が非常に大切だということを確認しました。</p> <p>一方で、再自立という言葉になってしまうと、身体的な自立が改善するということだけでなくにフォーカスされるような気がしますが、それだけではなくて、前の暮らしとか、本人が望む暮らしというのが、何か少しでも良いから取り戻せることが大事という話がありました。</p> <p>そういう意味では、このリエイブルメントや再自立の意味の理解がしっかり市民に浸透しているか、もっと言うと、ケア提供者も理解が進んでいるかというところは、非常に根底として大事という話になりました。</p> <p>アウトカム④の1番目に、「本人や家族が、再自立・重度化防止を希望している」とありますが、その前にしっかりと理解するとか、再自立したいという意欲が高まったというアウトカムがあっても良いのではないかという話がありました。</p> <p>それから、本筋ではないかもしれませんが、再自立したい人が増えれば、それはそれで良いかもしれませんが、再自立を希望しない人も一定数いらっしゃいますので、そういう方々への再自立しないことの意味の尊重をどう考えるかということも大事なことだと思います。</p> <p>また、現段階でアウトカム③は2つあり、事務局から上側は入り口、つまり再自立をするためのサービスを受けること、下側は出口で、再自立のサービスを受けて終わった後にどうなっていくのかということの2つを設定していますという話がありましたが、提供体制が整っているということも、アウトカムの③に入れたほうが良いのではないかという話がありました。</p> <p>それから、アウトカム④の真ん中辺りに「総合相談から再自立までの一連の流れがわかりやすく標準化されている」とありますが、本人が望む生活とか、もとの暮らしを取り戻すというところでは、非常に個別性や地域性が強いような内容ではないかという話になりました。</p> <p>ですので、必ずしも全てが標準化するという事は難しいのではないかという話になったので、この標準化について、この部分は標準化できるけど、この部分はやはり個別性が強いというところをしっかりと分けて考えると、そういったことが周知されていることが大事という話になりました。</p> <p>後は、下側の出口の部分ですが、このアウトカム④の「短期集中予防サービス利用者が、終了時に自立した生活を取り戻している」と「利用者が卒業後も社会とつながり、</p>

	<p>自分らしい暮らしを楽しんでいる」は、少し言葉が似ているので同じではないかという話のほか、「利用者が卒業後も自らの健康維持に努めている」という言葉がありますが、もう少し広い意味で「セルフケア」という言葉で置きかえたほうが、より正しい言葉として捉えられるのではないかという話になりました。以上です。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございました。続きまして、Cグループ、発表をお願いします。</p>
大井委員	<p>≪Cグループ（C09）≫</p> <p>Cグループの発表をします。Cグループは、「身近な場所で、さまざまな困りごとについて安心して相談できる体制が整っている」ということについて、話をしました。</p> <p>まず、アウトカム③の下のほうにある、「身近な高齢者に何か問題があったときに、高齢者が孤立せず、地域の方から相談できる」というアウトカムは、どちらかという地域とのつながりに関することなので、この中のカテゴリとは少し趣が違うというご意見が出ております。</p> <p>あと、上のほうに移りまして、「相談窓口が知られており、高齢者が1人で悩みを抱え込まず、相談できる」と書かれておりますが、八王子市内はたくさんの相談窓口があって、よく似た名前でも分かりづらいというご意見もあって、市民に十分周知されていないということが実際としてはあるのではないかということ、また、相談窓口についても、それぞれ機能や対象者が違うという状況があり、どこかに相談したら情報が共有されて、そのみんなで一緒になってその問題に関わってもらえるのかといった課題があるというご意見もありました。</p> <p>一応、重層的支援体制整備事業という制度があるので、そちらで解決していくというお話が市からもありましたが、このロジックモデルから見ると、そういう不明点が、大きくクローズアップされてしまって、なかなかこのロジックモデルをどうまとめていくかという話までたどりつかない部分もありました。</p> <p>あと、アウトカム④の上から2番目に「相談窓口に気軽に行くことができる」とあり、ここは心理面でのハードルを下げるという点での気軽に相談ができるという考え方ということですが、この事業・施策に「包括の地域アウトリーチ・イベント等」と書いてありますが、包括はそんなことをやっているのかと言われてしまって、包括支援センターとしては、いろんなイベントを通して地域の中で顔の見えるような関係性をつくるためにやっていますが、なかなか市民の方には理解が十分にされていないのかと感じました。ただ、顔の見える関係ということで、相談をするときにハードルが下がる、どんな人がいるのか分からないところには相談に行けないということで、この取組はいいことではないかというご意見がありました。</p> <p>そして、事業・施策のところに書かれているシルバーふらっと相談室について、市内に今4か所しかありませんが、まず名前からしてふらっと行きやすいという点はすごく良いというご意見がありました。</p> <p>あと、困りごとについては、なかなか自分が何に困っているのか分からない、何を相</p>

談して良いのか分からないという方も多いので、どういう困りごとはここで相談できるというように、具体的なことが分かるような一覧を考えたほうが良いのではないかという意見がありました。例えば、認知症に関して相談したいと思っても、それはどこなのか、認知症の相談窓口という名前がないので市民の方は分かりません。市報が毎月出ていますが、この市報の最後のページにある相談窓口のところにも、認知症の相談窓口とはどこにも書いていなくて、包括支援センターも「高齢者の福祉と介護の相談窓口」と記載されてしまっています。そういうところも工夫をしていったほうが良いのではないかという意見でした。以上です。

杉原会長

ありがとうございました。では、最後にDグループ、発表をお願いします。

井上委員

《Dグループ(C16)》

Dグループは、C16「介護人材が十分に確保され、やりがいを感じながら、無理なく、効率的に働いている」について議論しました。

アウトカム③の「介護に関わる労働力が十分に確保できている」と、「介護事業所・ケアマネの生産性が向上している」の2点について話し合いましたが、2点目のところにはほとんど行きつかず、介護に関わる労働力が十分に確保できているかというところで、議論が集中してしまいましたので、その点についてお話をさせていただきます。

まず、文言に違和感があったのですが、アウトカム④の最初にある「介護職の社会的地位が高まり、就業希望者が増えている」ですが、私は、介護職は格好良くあるべきと会社の人間にもよく言っていますが、我々はプライドを持っており、決して社会的地位が低いとは思っていませんので、この文言は何とかしていただきたいと思います。

それから、次の「介護職員の処遇が改善されている」というところですが、これは村上委員からもお話がありまして、市がどうこうできるものではなく、国の介護報酬の問題なので、ここは来年に向けて期待するところかと思えます。

「現場の職員がいきいきと働き、離職・休職率が抑えられている」というアウトカムも処遇に関わってくるところが大きいので、これ以外で何ができるのかという点はなかなか難しい問題と思っております。

それ以外で話が出たことは、ひとり親家庭の就労支援団体のようなところがあるので、そういうところとジョイントするということです。そういうところに来る方の中には、シングルマザー、シングルファザーの方もいらっしゃると思いますが、その方の仕事ももちろんのこと、住居についてもパッケージが必要なので、そこもマッチングさせていく必要があるのではないかという話がありました。

また、ひとり親家庭への支援について、役所も介護保険課や高齢者いきいき課など、部署が多岐にわたりますので、役所内の他部署との連携がこれからより必要になってくるのではないかというような意見もありました。

あとは、「スケールメリットや保険外収入を活かし、事業所が余裕を持って経営できている」についてもお話が出ましたが、介護に携わることができる人を増やすという

<p>杉原会長</p>	<p>ところで言うと、この事業・施策にあるように外国人の介護人材を育てることもそうですが、やはり八王子市の中でスクールなどをつくって人材を育てて、いわゆる地産地消、自分たちで育てて自分たちのところで消化していくというシステムを、これから5年、10年先を見据えて、今から始めないと難しいのではないかというような話もありました。以上です。</p> <p>皆様、時間が限られている中、まだまだ議論が足りなかったと思いますが、丁寧に話してくださってありがとうございます。</p> <p>今回のロジックモデルは、政策の設計図と言われるようなものです。例えば、家を建てる時にその辺にある材料を適当に集めて家を建てようなんて考える人はおりませんので、政策も同様で、やはりまず家を建てる時は、どんな家を建てようかというイメージを持って、それから、構造をどういうふうにしようか、柱をどうしようかとなり、構造ができると、内装はどうしようかといった話になっていくと思います。</p> <p>政策も同様で、まずどんな八王子にしたいのかとみんなでイメージを描く、まちのイメージを描き、それを達成するためにはどんな柱が必要なのかという構造の議論を今日は主にさせていただきました。</p> <p>柱として足りないところも、今回の議論で明らかになってきたと思いますので、事務局の皆様、お手数ですが、ぜひ集約のほどお願いします。</p> <p>だんだん各論に入って、内装、つまり具体的な事業をどうしようかという話が次回になってくるかと思しますので、皆様、暑い中ですが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局に戻しますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>吉本課長</p>	<p>高齢者いきいき課長、吉本です。本日も、前回に引き続き、グループに分かれて、熱い議論を交わしていただきまして本当にありがとうございました。</p> <p>私も各グループを回ってみて、こういうところが足りなかったなど、行政側の視点で見たものと、皆さん専門職の方や、市民の方の目線はやはり違うと改めて感じる場所がありました。</p> <p>今日いただいたご意見等は、事務局で練り直して、ロジックモデルをまた組み立てていく、そんな形で考えております。また次回も継続して、次のテーマでお話をする形になるかと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございます。</p>
<p>辻主査</p>	<p>4 事務連絡</p> <p>次回開催日程は、8月9日（水）午後2時から4時までで、会場は学園都市センターです。次回も、個別ロジックモデルについてワークショップを行う時間を設ける予定です。つきましては、先日依頼した個別ロジックモデル希望調査のご回答をいただいている方は、ぜひ希望をご提出いただきますよう、お願いいたします。</p>

杉原会長	<p>希望調査と今回のワーク結果をもとに、第4回部会のワークショップメンバーの割り振りを行い、皆様に通知します。</p> <p>また、本日の会議内容についてご意見等ございましたら、配付させていただいた意見書を、1週間以内にメール、郵送、FAXまたは直接事務局までお送りください。ロジックモデル等についてご不明な点等ございましたら、意見書以外でも随時、ご質問やご意見をいただけますと幸いです。</p> <p>なお、本会議の会議録については、後日各委員に内容確認のためメールで送付させていただきますので、ご確認をお願いいたします。</p> <p>5 閉会</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、以上で本日の会議は終了させていただきます。</p> <p>お疲れ様でした。</p>
------	--